

地域医療の現状学ぶ

徳大サークル 三好・つるぎを訪問



西祖谷山村診療所で設備などについて説明を受ける地域医療研究会のメンバー＝三好市西祖谷山村

読んで学ぼう

徳島大学医学部の学生サークル「地域医療研究会」は24日、三好市とつるぎ町の医療機関を訪れ、地域医療の現場に触れた。

学生12人と徳大総合診療学分野の谷憲治教授らが、三好市の三野病院と西祖谷山村診療所、つるぎ町の半田

病院を訪問。西祖谷山村診療所では、森喜敏事務長から診察態勢や機器の説明を受けた。

学生たちは、医師不足に悩む過疎地の実情を知り、地域医療の大切さをあらためて感じていた。

サークルは県内の医療の現状や課題を学び、解決策を探ろうと2007年に結成。部長の多田紗彩さん(23)は4年間は「予想以上に設備が整っていて驚いた。いつかは地域医療に携わってみたい」と話した。(坂田佑耶)